

北海道 文教広報



HBU公認食育アイドル
「えにわっ娘」と「IX-ALICE」

HBU学生も出場
FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ2025
HBU発SDG s の取り組み
2024年度後期キャンパスライフ



弥生、3月。春まだ遅い北海道・恵庭市にも、
やわらかな陽光が降り注いでいます。
卒業・入学・進級とキャンパスや幼稚園で学ぶ
学生・生徒・園児たちはそれぞれに新たなステージを迎えます。
皆さまの毎日が健やかで笑顔にあふれ、
希望に満ちた2025年度となりますよう、
学校法人鶴岡学園の教職員一同、心より願っています。

TORINO 2025
FISU WORLD UNIVERSITY GAMES

2025年 1月13日～1月23日 HBUから女子アイスホッケー・男子スノーボ FISU冬季ワールドユニバーシテ

国際大学スポーツ連盟(FISU)が主催し、2年に一度開かれるFISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ。2025年はイタリア・トリノで開催。HBUの学生もアイスホッケー女子(6名)とスノーボード男子 パラレル大回転・男子 パラレル回転(1名)が出場しました。



人間科学部
こども発達学科 4年

…目標は幼稚園教諭

山本 桃香

(TOYOTAシグナス)DF

「個人スキルの高い
海外選手相手にバトルで
なかなか勝てなかった。
悔しい」

人間科学部
理学療法学科3年
…目標は理学療法士志望

北村 さくら

(道路建設ペリグリン)DF

「アメリカに
完封勝利できて
うれしい!」

国際学部
国際コミュニケーション
学科3年

…英語など外国語で人と
関われる仕事が見たい

鎌田 美南

(道路建設ペリグリン)FW

「脳しんとうで途中から
出場できなくなったけれども、
プレー以外でチームに
貢献できることがあると
学んだ試合でした。」



強豪と戦い大健闘!

スノーボード 男子 パラレル大回転 17位
男子 パラレル回転 14位

自分の殻を破る挑戦ができた大会でしたが、世界の強豪の中で自分の力が通用せず悔しいです。

ただ、スポーツは世界の人と繋がることのできる素晴らしいものと改めて認識できました。大会直後の今は精神的にくたくた。帰国したらゴロゴロしたいですね。大学をはじめ、周囲の応援で最高の経験をさせていただきました。ありがとうございます。(トリノにて)

■ 国際学部
国際コミュニケーション学科 1年
住永 翔吾
住永選手を応援しよう!
<https://shogo-snow.style/>



ード選手が参戦 イゲームズ2025

人間科学部
健康栄養学科3年

…目標は管理栄養士志望

早川 愛珠

(道路建設ペリダリン)FW

「納得のいく
プレーができず悔しいけど、
メダルを獲得できて
うれしい!」

▲写真左から、早川愛珠、田邊真希、
伊藤小桃、山本桃花、鎌田美南、北村さくら(敬称略)

**世界3位
銅メダル**

多くの方々に
応援していただき
ありがとうございました。

人間科学部
健康栄養学科1年

…世界各国で食事に困っている
人々を助ける仕事につきたい

田邊 真希

(TOYOTAシグナス)FW

「海外の選手と
戦うことができ
視野が広がりました」

人間科学部
健康栄養学科1年

…管理栄養士になって
多くの人たちの食事を
サポートしたい

伊藤 小桃

(TOYOTAシグナス)FW

「得点した時や体を張って
シュートブロックした時に
チームがひとつになった
気がした」

コーチ
人間科学部
健康栄養学科 助教

米山 知奈

(元オリンピック選手)

選手の頑張りが
銅メダルとして形に残ったこと、
スタッフとして良い経験を
させていただき
嬉しく思います。

がんばれ、学生アスリート!

レッドコード スポーツ栄養

競技力の向上

インソール ピラティス

北海道文教大学を代表する
「学生アスリート」の育成!

履修相談 英会話

学生生活の充実

キャリアサポート

アイスホッケー教室

競技普及活動

情報発信 地域貢献活動

HBUでは、学生アスリートの身体機能の維持・向上を目的に、希望する選手たちをサポートしています。

たとえば、人間科学部健康栄養学科の小山 奈緒美教授(スポーツ栄養学)とアイスホッケー女子日本代表「スマイルジャパン」のメンバーとして3度の冬季オリンピック出場経験をもつ米山知奈助教は、教職員有志が集まる「女子アイスホッケー支援部」で食事やメンタル面を支援。

リハビリテーション学科の大森圭教授と高田雄一教授は、レッドコードやインソールなどの機器・グッズを活用し選手のパフォーマンス向上を応援。男子スノーボードや陸上などその他の種目についても個別に対応しています。

健康と福祉・エネルギー・住み続けられるまちづくり・気候変動対策……

HBUはSDGs (Sustainable Development)

北海道文教大学が取組んできたSDGsにつながる活動

えこりん村SDGs研修 (2022年5月～)

本学と包括連携協定を締結しているえこりん村にて新入生全員参加のSDGs研修を行っている



プロフェッショナルとして社会貢献できる人材を創立時から一貫して育成してきたHBU。でも、HBUの役割はそれだけではありません。2015年に国連サミットで採択されたSDGs (持続可能な開発目標) にも積極的に取り組んでいます。学生はもとより、地域の人々の豊かな未来を考えていくこともHBUの務めです。

北海道文教大学が取組んできたSDGsにつながる活動

SDGs井当記者会見 (2023年5月)

えこりん村と健康栄養学科の共同事業で、えこりん村へ学習旅行に来る児童・生徒向けの井当を開発



北海道文教大学が取組んできたSDGsにつながる活動

海のクリーンアップ大作戦ボランティア参加 (2022年6月～)

コープさっぽろ主催の企画に、学生有志のボランティアスタッフにて参加



実現に向けて「カーボンニュートラル推進センター」開設

これまでSDGsへの取り組みを実践してきた北海道文教大学では、ゼロカーボンシティ宣言を出した恵庭市にも呼応して、脱炭素社会の実現を目指し、太陽光発電による電力供給を受けることとし、2025年1月に事業を担当する「カーボンニュートラル推進センター」を設置しました。

この事業では、電力由来のCO2削減に向けた目標値を掲げるとともに、学生に対する環境教育の授業を展開し、地域住民にも公開講座などで広く啓発していく予定です。

また、大学に隣接し、災害時には物流拠点となる恵庭市総合体育館に電力を供給する等、地元の災害レジリエンスを高めることとしています。

20250129 道央 (千歳・恵庭)

脱炭素実現へ「推進センター」

道文教大に専門部署設置

【恵庭】脱炭素社会の実現を目指す「カーボンニュートラル推進センター」を、太陽光発電事業などに乗り出す北海道文教大が今月、同大で28日に開かれた。



カーボンニュートラル推進センターの設置や、太陽光発電事業などについて報告が行われた北海道文教大の教職員・学生向け説明会

【恵庭】脱炭素社会の実現を目指す「カーボンニュートラル推進センター」を、太陽光発電事業などに乗り出す北海道文教大が今月、同大で28日に開かれた。

この日の説明会では、渡部学長が学生ら約60人に、災害時に物流拠点となる市総合体育館に電力を供給する仕組みなども併せて持つ同事業の概要を報告。環境教育の授業や対外的PRを展開していく考えも示し、「温暖化は非常に大きな問題。大学としてもしっかりと対策を進めていきたい」と強調した。(梶山征広)

た教職員・学生向け説明会では、センター長を兼務する渡部俊弘学長が取り組みへの理解と協力を求めた。センターは15日付で、学内の鶴岡記念講堂内に設置された。メンバーは渡部学長と、同大の教職員ら計6人。

同大は、恵庭市が2022年6月、50年の温室効果ガス排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を出したことを受け、学内での取り組みについて本格的な検討を開始。太陽電池シート3670枚などを学内に備える太陽光発電事業に取り組みむことを決めた。総事業費4億8千万円のうち、環境省から約3億円の補助を受ける。工事は4月にスタート。11月の完了後は、二酸化炭素の年間排出量の30%削減が実現する。同大は30年に50%、50年に100%の削減目標を掲げる。

Goals)に取り組んでいます

今年度は海外協定校も参加

ふくれん×HBU 「食とSDGsレシピコンテスト2024」

国連が掲げるSDGsの目標には、2番目「飢餓をゼロに」、12番目「つくる責任 つかう責任」があります。食材や料理をムダにせず、使いきる・食べきることで、私たちもSDGsの取り組みに参加できるのです。HBUでは、人間科学部健康栄養学科や附属高校の食物科などの学生・生徒たちが中心となり、産学連携で新商品の開発や料理コンテストの参加などを通じて、食の課題にチャレンジしています。

10月21日、HBUで「食とSDGsレシピコンテスト2024」が開催されました。このコンテストは食品ロス削減など「持続可能な食」という視点から、包括連携協定先である株式会社ふくれん（福岡県）の『九州産ふくゆたか大豆 成分無調整豆乳』、通常は取り除かれるおからを含んだ『まるごと大豆飲料 大豆スムージー』を使って、「食品開発Lab.」に所属する学生たちがオリジナルのレシピを考案するものです。今回は、HBUの健康栄養学科の学生や附属高校の生徒、協定校のタイ Sacred Heart College Chiangmai (通称:パハルタイ) の学生も参加。大学とふくれんによる審査の結果、237品の中から、附属高校食物科1年の箱石千鶴さんとパハルタイの3年生ベンチャヤー・ウィセットガンタラゴーンさんがグランプリを受賞しました。



天ぷらの衣とタルタル風ソースに大豆ファイバーを使い、まるやかさを出すためにソースにはハチミツも加えました。自分の知識と技術を生かし、楽しみながら開発したレシピが受賞でき自信につながっています。卒業後は就職して経験を積み、自分のキッチンカーを持つのが夢です!

(箱石千鶴)

たんぱくとり天



優秀賞 栄養たっぷりロール

▲野菜たっぷりの生春巻きしゃぶしゃぶ

優秀賞 パハルタイ 3年生 キラティガンさん(中央)とベンチャヤーさん(右)。



บาร์บินไฟเบอร์

ファイバーバービン

大豆ファイバーを使ったタイ風パンケーキ



海外グランプリ: パハルタイ 3年生 ベンチャヤー・ウィセットガンタラゴーン、レシピ名「ファイバー・バービン」

ガッツだね、HBU学生! 2024年度も学生活動は

学内

学外

ひゃっか

百花

鶴岡新太郎、トシ先生ご夫妻が、第二次世界大戦中である1942年に設立したHBUの前身である「北海道女子栄養学校」。キャンパスライフのかたちは変わっても、おふたりが遺された学訓「清く、正しく、雄々しく、進め」は、創立から80年以上を経た現在も息づいています。学内外で活動する学生たちの様子をご紹介します!

10月12~13日

わくわくのHBU大学祭 「恵華祭」2024年度も大盛況

各学科やサークルなどから約60の模擬店が出店した2024年。その多くは「食と健康」に強いHBUらしく食べ物関連で、どの店舗もおいしいものばかり! また、中国やモンゴルなど各国の留学生が、自国の料理をふるまい大好評。そして、2日目に鶴岡記念講堂で開催されたゲストライブにはお笑いトリオ「ハナコ」が登場。盛りだくさんの学祭メニューに、札幌からも駆けつけてくれた一般参加の人たちもいたようです。皆さま、ありがとうございました。



恵華祭実行委員長の
くまがいみらい
熊谷未来さん
(健康栄養学科3年)
に聞きました

1年生のときから実行委員として参加し、今回は3年生の私が実行委員長を務めました。5月から毎週1回実行委員会を開いて準備しましたが、実行委員の人数がこれまでより減ってスタッフ不足。みんなで力を合わせて乗り越え、大きなトラブルもなく終えることができ、「やりきった!」感があります。管理栄養士として医療分野で働くのが夢です。きっと、この貴重な経験が生かせると思っています。



おめでとう! 札幌6大学野球 1部リーグ昇格

9月23日に開催された秋季2部リーグ戦で初優勝したHBU野球部。国際学部国際教養学科3年の長船拓夢（おさふねたくむ）さんが最優秀選手賞、同3年の谷口魁（たにぐちかい）さんが首位打者賞に選ばれました。



2025年度の春季リーグ戦では1部リーグで戦います。数年前まで部員数が少なく弱小チームだった野球

部が次に目指すのは北海道一、そして日本一!

育放

テレビで、ライブで、絶好調!

歌って踊ってHBU公認

「食育アイドル」えにわっ娘。…大阪でライブ公演

IX-ALICE (イザリス) …NHK「ホットニュース北海道」で特集

新メンバーも
加わり、各地で
食育ライブ
活動中です

えにわっ娘。



IX-ALICE (イザリス)



去年から
3名→4名で
活動中



フィリピン、ネパール、ミャンマー、スリランカ、
韓国、中国、モンゴル、アメリカ留学生
+ 恵庭市民ボランティア

合同クリスマスパーティーで 異文化交流

12月17日、HBUの国際交流センターで、HBU留学生と市民ボランティア「えにわ外国人サポートクラブ」が行う『日本語ひろば「えにわ」』が合同でクリスマスパーティーを開催。参加者たちが母国料理を持ち寄って、楽しく賑やかなひと時を過ごしました。

大好評!!

健康栄養学科学生チームが
福岡県のオニマル食品と
「たらこ高菜」を開発
2月からネット販売中!



おいしい!! と
大好評!

からだと環境・地域にやさしく！ ますますパワーアップした 2024年度のHBU学外活動

12月28～29日

「レバンガ北海道 Winter Classic (ウインター・クラシック) @エスコンフィールド」で健康栄養学科の学生考案商品を販売



健康栄養学科2年の「食品開発論」の授業で、2024年度もエスコンフィールドHOKKAIDOとの連携で商品開発を行いました。2023年度準グランプリ受賞チームがレバンガ仕様に再考案したレバンガ北海道のチームカラーをハウレンソウで表現した洋風うどん『全緑(全力)！レバ

ンガUDONN』(税込800円)が、1日100食限定で、12月28日と29日に会場内で販売されました。もちろん、完売！

年が明けて1月29日には3月18日オープン戦に販売する商品のプレゼンテーションも行われ、「サワークリームオニオンドック」(写真左下)が販売予定商品に選ばれました。こうご期待！



限られた予算の中で“売るための商品”をいかに考案するか？学生たちには将来役に立つ貴重な体験です。皆さん、おつかれさまでした！

小山奈緒美
(人間科学部健康栄養学科 教授)

教育支援センター「学びの森」 人間科学部こども発達学科の学生ボランティア奮闘中

HBUの本館4階には、さまざまな事情で学校に通うことができない小中学生の学びをサポートする「学びの森」があります。

この取り組みはHBUと恵庭市教育委員会との共同研究事業によるもので、恵庭市の教育委員会の指導員5名が常駐。総勢数十名の児童・生徒が平日にやってきて、それぞれに

ボランティア
浅野篤史さん
(こども発達学科2年)
に聞きました

見合った授業を受けています。

そして、夏祭りやクリスマス会には、保育士や幼稚園・小学校の教員を目指すこども発達学科の学生たちもボランティアで参加し、実学中です。

1年生のときから参加

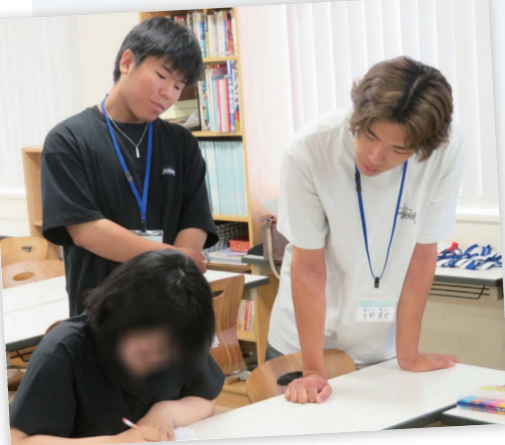
主にイベントの企画・運営にかかわっています。研修会もあり、そのときは事例をもとに、自分たちがその場に居合わせたらどのように対応するかを、みんなで検討しています。

考えが深まった!!

講義で学んだ理論と実際に子どもたちと触れ合って感じたことが結びつき、学びを深める場になっていると感じています。

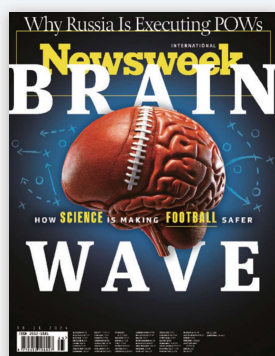
小学校教員になりたい!

家業の農家を継ぐか小学校教員になろうか悩みましたが、父親に「やりたいことやったらいい」と背中を押され、こども発達学科に進学しました。自分が受け持った児童が大人になったときに「あの先生はいい先生だった」と言われるようにしたいです!



多様性をテーマにアジア諸国の留学生を多数受け入れているHBU 海外メディアも注目

世界中で発行・配信されている週刊誌『Newsweek International』（国際版）。2024年11月8日発行版に、渡部俊弘学長のインタビュー記事が掲載されました。記事では、国際学部や留学生の受け入れ、教育プログラムに人工知能を最大限に活用できるよう、デジタルトランスフォーメーションの取り組み強化などが紹介されています。ローカルな私立大学だからこそできるグローバルな人材育成。HBUの取り組みは、世界の人たちにも知られることとなりました。



海外で異文化を体感して新たな自分を発見！ シンガーソングライター 庄野真代さんからSPメッセージ



2024年9月23日、恵庭市と北海道文教大学が共催した「えにわ多文化共生フェスタ2024」が開催されました。外国人によるブース展示や文化紹介、遊びなどを通じて相互理解や国籍を超えた交流を促進するイベントで、ゲストパネリストとして庄野真代さんが参加。イベント終了後に、渡部俊弘学長、青 晴海副学長と懇談しました。

庄野さんは、1970年代に『飛んでイスタンブール』などのヒット曲を連発し大活躍しました。その後、

現在は市民活動団体「国境なき楽団 PLUS」の代表として、音楽を通じた社会貢献活動やこども食堂の運営など幅広く活動しています。

懇談の中で庄野さんは最近の若者について、「インターネットなどを通じて海外の状況や情報が手軽に手に入ることで、現地を訪れること自体に興味を持たない若者が増え、夢や目標も国内で完結しているように感じます。海外に出かけ異文化に触れることで、自分の考えがもっと広がると思います」と語り、若者を取り巻

く大人に対しては、「何かをするにあたり、全てお膳立てしてしまいがち。もっと本人に考えさせることが必要で、そうした体験をすることで成長していくと思います」と助言。渡部学長も、「海外経験を通して色々な刺激を受けることで、これまでと違った感性が育ち、さらに人間として成長する」と自身の考えを伝えました。

また、「最近の若者はオンラインコミュニケーションが主流で、対面での交流も減りつつあります。積極的に活動すると自分自身の考えも広がり、その経験が自信となり、次の行動につながっていく。こうした一連の流れを仕掛けていきたい」と話されました。音楽業界で大活躍し、その後、大学や大学院で学び、さまざまな活動を展開してきた庄野さんの人生経験に基づく言葉を、HBUの学生に受け止めてほしい！と、渡部学長以下HBU教職員一同は願っています。

北海道文教大学附属高等学校

個性キラリ! パッションあふれる文教生

思い出
いっぱい、
修学旅行!

高校生活の一大イベントである修学旅行が10月22日～26日の日程で行われ、広島・京都・大阪・奈良をめぐる3泊4日の旅を通し、北海道とは異なる風土や文化、歴史を体感した2年生でした。



- 1日目 新千歳空港→広島/岩国空港→平和記念公園・資料館
 2日目 宮島・厳島神社(写真)→京都→三十三間堂→清水寺
 3日目 京都・大阪 班別自主研修
 4日目 奈良公園(東大寺南大門・大仏殿)→伊丹/関空→羽田空港→新千歳空港

BUNKYO
大運動会!

9月26日・27日の2日間、恵庭市総合体育館において、BUNKYO大運動会が開催されました。今年度は、昨年度までの球技中心の体育大会からその名の通り、障害物競争や大縄跳び、綱引きなど運動会的な競技に変更し、全校生徒を紅組と白組に分け、学年の垣根を超えた行事として実施されました。生徒たちはもちろん、各組に振り分けられた先生たちも真剣に、そして楽しく競技に参加し、大いに盛り上がりました。

食物科
卒業
料理展!

令和7年1月24日、食物科3年生にとって3年間の集大成を発表する場である卒業料理展が行われました。

西洋料理部門
「merci du fond du coeur
～ありがとう～」
最優秀賞 奥田朱音



日本料理部門
「花」
最優秀賞 渡邊心菜



躍動する 部活動！

12月29日から兵庫県で開催された全日本高校女子サッカー選手権大会に出場しました。7月のインターハイで1回戦敗退となり、この悔しさを次にぶつきたいと語っていたキャプテン

の曾部妃加里さんが照準を合わせてきた大会です。1回戦、佐賀県代表の神埼高校に2対1で見事勝利、2回戦は地元兵庫県代表の神戸弘陵高校です。勝てば全国ベスト16となるこの試合は0対1で惜しくも敗れましたが、自分たちのプレーが通用した場面も多く、来年度に向けて自信につながった大会でした。

女子サッカー部



吹奏楽部

11月29日、恵庭市議会における議場コンサートに参加しました。恵庭市長や教育長をはじめとする市役所の方々や市議の方々に日頃の練習の成果を発表しました。

また、1月11日・12日に行われた吹奏楽連盟主催のコンテストに参加し、アンサンブルコンテスト金賞など優秀な成績をおさめました。

進化する地域連携、学外の社会体験で視野が広がりました！

11/22

地域交流事業の1つとして、恵庭市長寿大学の皆さんを招き、食物科が調理した中華丼などを提供しました。



12/6

恵庭市立柏陽中学校2年生との中高連携授業として理科実験・調理実習・高校紹介を行いました。

11/29・12/13

恵庭市立恵み野小学校6年生が来校し、食物科2年生を講師に調理実習を行いました。



11月30日土曜日、午前9時から、各クラスの保護者の方を入れ替えて発表会を行いました。当園の発表会は、2歳児と異年齢縦割りクラスの日々の遊びを、子どもと保育者が20分程度の劇遊びに作り上げ、保護者とともに楽しむ内容です。

演目は、つぼみ組(2歳児)「今日はなにになる?」、あさがお組(縦割)「にじいろのさかな」、ちゅうりっぷ組(縦割)「11ぴきのねこのだいぼうけん」、たんぽぽ組(縦割)「たんぽぽもりのむしむしふえすていばる」。今年の保育のねらいは、「さまざまな表現活動を通じて表現する楽しさを味わう」「友達と協力して一つのものを作り上げる中で充実感を味わう」です。

当日は、こどもたちの日々の楽しみを、保護者の皆様と分かち合うにふさわしい会になりました。この日までに日常の「楽しい遊び」をつなぎ合わせ、子どもと保育者が一緒になって話し合い、一つの劇遊びにつくり上げました。どのクラスもどの子も「うれしい・たのしい」にあふれていました。私たちに大きな喜びを与えてくれるひと時でした。

冬になり、2月初旬まで雪がとても少なく、除雪した雪を積み上げての雪山遊びや新雪の中に分け入っての遊びはできなかったのですが、子どもたちは嬉々として戸外で遊びました。

園長 小田進一

2024秋～2025冬 秋から冬のこどもたちの 様子をお知らせします。

幼保連携型認定こども園
北海道文教大学附属幼稚園



あさがお



ふたば



たんぽぽ



つぼみ



ちゅうりっぷ



めばえ



社会とともに包括連携協定 100件記念フォーラム

2014年の恵庭市との連携協定を皮切りに、HBUが進めてきた自治体・企業・団体・医療機関などとの「地域包括連携協定」。その締結件数が昨秋100件に達成し、2024年11月9日、鶴岡記念講堂にて「連携協定100件記念フォーラム」を開催しました。

開会のあいさつで、渡部学長から、これまでの連携協定先のご協力に対する御礼とともに、今後は海外も視野に入れ、連携協定による人と人とのつながりを全世界に広げていきたいとの意向が示されました。フォーラムでは、大森副学長による連携事業の紹介や、連携協定先の方々とのパネルディスカッションが行われました。

連携協定の目的は、地方大学が核となって異文化とつながるプラットフォームをつくり、地方創生の機運を高めていくこと、そして、さまざまな企業や自治体との連携を通して学生が社会に触れることで、日本や世界で活躍する人へと成長してほしいという願いが込められています。

本学では、創設期から一貫して地域社会に貢献するスペシャリストを育ててきました。今後も、創立100周年へと向け、協定先と連携しながら、地域と一体となった学びの推進をさらに発展させていきます。



1 7月30日 社会福祉法人恵正会

2 7月31日 北海道南富良野高等学校

3 8月6日 北海道味の素株式会社

4 8月9日 駒澤大学附属苫小牧高等学校

5 8月30日 医療法人社団日向会
しらかば台月寒東クリニック

6 9月2日 株式会社AQUA System Labo
及び合同会社アクアシステム

7 9月17日 株式会社RABILOO JAPAN

8 10月18日 網走市

9 10月21日 明治国際医療大学及び
一般社団法人日本養生普及協会

10 10月21日 社会福祉法人
北海道社会事業協会余市病院

11 11月8日 株式会社メディアコム

12 12月18日 フジッコ株式会社

13 1月9日 友ランゲージアカデミー札幌校

14 2月12日 社会医療法人 北農会
恵み野病院

15 2月18日 学校法人フレンド恵学園

学校法人鶴岡学園 鈴木武夫 理事長 逝去

～教育・経営に捧げた93年の生涯～



学校法人鶴岡学園 理事長
鈴木 武夫
(すずき たけお)

2025(令和7)年1月23日 学校法人鶴岡学園の鈴木武夫理事長が、93歳にて逝去いたしました。ここに生前のご厚誼を深謝し、謹んでお知らせ申し上げます。

鈴木理事長は、日本私立短期大学協会の職員時代に、当時の鶴岡トシ理事長から熱心な勧誘を受け、1969(昭和44)年に学校法人鶴岡学園の理事に就任。理事長を補佐されて、経営改革に取り組まれました。さらに、それまでの功績により2000(平成12)年には理事長に就任され、理事就任から五十余年にわたって本学園の経営に携わり、現在の鶴岡学園を築き上げられました。

鈴木理事長は、常に360度にアンテナを張り巡らし、絶えず更新されている経済社会の動向を的確に把握する必要があるとの考えのもと、さまざまな施策に取り組み、1988(昭和63)年には北海道栄養短期大学を恵庭市に移転させました。そして、1999(平成11)年には、創設者である鶴岡新太郎、トシ先生ご夫妻の夢でもあった4年制大学であ

る北海道文教大学を開学し、国際化の進行に伴い重要性を増す外国語教育を実践する外国語学部を設置するという変革を成し遂げられました。

また、理事長就任後の2006(平成18)年には、「食」だけではなく、「健康」を総合的にプロデュースする人材を育成するために、北海道の私立大学で初めてとなる理学療法学科を設置。その後、作業療法学科、看護学科の設置も決め、自らその準備を進められました。

こうした考え方や行動力は年齢を重ねてもとどまることを知らず、2021(令和4)年には、外国語学部を改組し、国際学部を設置するとともに、札幌市にあった附属高等学校と附属幼稚園を恵庭市に移転させ、本学園が抱える機関の運営一体化を図られました。さらに2022(令和5)年には、人間科学部を改組した医療保健科学部を設置させるなど、最後まで学園の発展に取り組まれ、学園のみならず恵庭地域との連携にも力を注がれ、多大な貢献をされました。

1931 (昭和 6)年	11月	福島県に生まれる
1954 (昭和29)年	3月	大東文化大学卒業
1957 (昭和32)年	10月	日本私立短期大学協会に入職
1969 (昭和44)年	4月	学校法人鶴岡学園理事・評議員に就任(～令和7年1月) これ以後、鶴岡トシ理事長を補佐し、学園の発展に尽力する
1985 (昭和60)年	5月	日本私立短期大学協会理事・事務局長に就任
1989 (平成 元)年	9月	学校法人大東文化学園理事長に就任(～平成9年1月)
1998 (平成10)年	5月	日本私立短期大学協会常任理事・事務局長に就任
2000 (平成12)年	4月	学校法人鶴岡学園理事長に就任
2002 (平成14)年	4月	北海道文教大学学長を兼任(～平成30年3月) 大学3学部7学科、大学院4研究科の体制を構築
2025 (令和 7)年	1月	93歳にて永眠



本学園の理事になった頃の鈴木武夫理事
(写真右)と鶴岡トシ理事長



北海道文教大学の学位記授与式における鈴木武夫学長

令和7年3月16日(日)、札幌グランドホテルにおいて
「前理事長鈴木武夫儀お別れの会」が執り行われます。

北海道文教大学

OPEN CAMPUS

オープンキャンパス

2025年3月22日(土)、5月31日(土)、6月28日(土)、8月2日(土)、9月13日(土)、
10月4日(土)、12月13日(土)※ 2026年3月28日(土)

※12月13日(土)はオンライン開催予定

オープニング

北海道文教大学の学びの特色や、
多様な総合型選抜の説明などの
トピックを紹介します。



体験型学科プログラム

各学科の学びの特色や目指す職業の
仕事内容などを体験することができる
プログラムをご用意いたします。



個別相談会

奨学金や住まいの相談、入試制度、
学科の学びについてなど、進学にまつわる
さまざまな疑問や不安にお答えします。



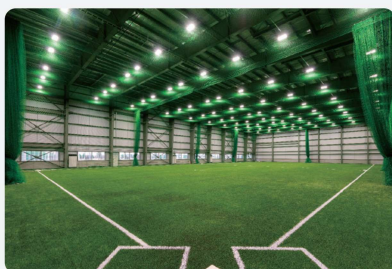
恵庭ツアー

恵庭での学生生活がイメージできるように、
マイクロバスに乗って恵庭市内を探索する
ツアーを実施します。



キャンパスツアー

学生スタッフが、学内の見どころを学生の目線で
解説しながらご案内します。在学生ならではの
リアルな学生生活の話を聞くこともできます。



ミニ体験コーナー

一つの会場に全学科の体験ブースを設置！
いろいろな学科の学びを体験できます！

参加特典①：オープンキャンパスに参加＋
アンケートに回答でAmazon
ギフトカードプレゼント！
参加特典②：道外からの参加者を対象とした
交通費補助制度あり！

オープン
キャンパスの
お申し込み
はこちら



2025年度 北海道文教大学 オンライン個別相談会のご案内

遠方にお住まいでなかなかオープンキャンパスに参加で
きない方や、学科教員と個別にお話したい方を対象として、
オンラインでの相談会を実施しています。日程や時間は、
個別に調整いたしますので、お気軽にお申し込みください。

オンライン
個別相談会
のお申し込み
はこちら



活かす人へ 北海道文教大学

〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1
TEL: 0123-34-0160 FAX: 0123-34-1640

■人間科学部：健康栄養学科／子ども発達学科／地域未来学科
■国際学部：国際教養学科／国際コミュニケーション学科
■医療保健科学部：看護学科／
リハビリテーション学科
(理学療法専攻・作業療法専攻)

北海道文教大学
公式webサイト



www.do-bunkyo.ac.jp

入試広報課
公式LINE



@dobunkyo

オープンキャンパス、
入試のお問い合わせはコチラ▶▶▶ 入試広報課 0120-240-552

入試広報課では、資料請求をはじめ様々なご相談にお答えします。お気軽にご連絡ください。

ACCESS —アクセス—



■JR利用の場合

- JR恵庭駅から
JR恵庭駅「東口」から直進徒歩8分で
北海道文教大学正門に到着
- 札幌駅から
「JR千歳線」乗車、3駅目の「恵庭駅」下車後、
東口より直進徒歩8分で
北海道文教大学正門に到着
JR恵庭駅まで快速「エアポート」で24分
(快速エアポートは約12分おきに運行しています)
- 新札幌駅から
「JR千歳線」乗車、2駅目の「恵庭駅」下車後、
東口より直進徒歩8分で
北海道文教大学正門に到着
JR恵庭駅まで快速「エアポート」で15分
(快速エアポートは約12分おきに運行しています)

■自家車で来学される場合

- 高速道路「恵庭IC」下車。高速道路出口を左折、恵庭川沿大通
(道道117号線)を直進8分で北海道文教大学到着
(駐車場は左に記載のとおり)